

た か し

<http://www.suginami-school.ed.jp/takaido4shou/>

杉並区立高井戸第四小学校

新しい「学び」を創る

校長 加納 直樹

教育の「ICT化」が叫ばれる中、文部科学省が令和元(2019)年12月に打ち出した、ICTを積極活用した教育改革「GIGAスクール構想」が着々と、いや急速に進んでいます。「GIGAスクール構想」の「GIGA」は、よく耳にするギガバイトのギガではなく、「Global and Innovation Gateway for All」の頭文字をさします。日本語にすると「みんなが国際舞台と革新的創造の扉を開けることができる学校にしよう」となります。そのまま訳すと分かりにくいですが、子供たちがこれからの時代に必要な力(ICTの利活用に必要な知識や技能)を身に付けるための教育を推し進めていくということです。そのために国をあげて投資し、環境整備等を推進しています。これが「GIGAスクール構想」の全体像です。その背景にあるのは、日本のICT教育の遅れだと言われていますが、新型コロナウイルス感染拡大による臨時休校が大きなきっかけとなり、スケジュールの前倒しが必要と判断され、ICTを活用した学習システムの早急な整備が進められました。

本校でも昨年度1人1台のタブレットが導入され、各教科の授業の中で活用する場面が増えています。今年度本校は「ICTを効果的に活用した児童の表現力の育成」を研究主題として、ICTを積極的かつ効果的に使い、自分の考えを明確にもち、それを相手に分かりやすく工夫して表現できるような児童の力を伸ばし育てていきたいと考えています。

その一方で、学校教育は時代とともに変化してきてはいるものの、コロナ禍であろうとICT化が加速しようとして教育において大切な、変わらないものがあると思っています。その一つは「学校の本質」は、考える人間を育てるということ、そしてもう一つは「教育は人なり」。教師の背中を見て子供が育つということです。

そこで今年度から、月一度の土曜授業の日は高井戸第四小学校では「生き方科」と銘打った特設の授業を行います。小学校の教師として必要なこと・・・その一つは、自分で考えることのできる教師であることです。もう一つは自分の言葉で自分の思いを語れる教師であることです。考える児童を育てるためには教師自身が考える人でなくてははいけません。自分の言葉で自分の思いを語れる児童を育てるためには、教師自身が自分の言葉で思いを語れなくてははいけません。小学校教師こそクリエイティブであるべきだと私は思っています。型にはまらない自由な、創造的な授業を実践することで、児童にとっても私たち教員にとっても、数字では表せない力が身に付くと考えています。先月の23日に第1回「生き方科」の授業がありました。先生たちの思いのこもった熱い授業が各教室で展開されていました。

土曜授業の日はぜひお子さんに、今日の先生は誰で、どんな話が聞けたのか、そしてお子さんが何を感じ、何を考えたのか。ぜひ子供の学びを保護者の方から聞いてみてください。

高井戸第四小学校は「生き方科」の授業を通して、「自ら未来を切り拓く、心豊かでたくましい児童」を育成します。